

# 数字で見ると 平成26年度の まちづくり

## 平成26年度決算を 報告します

平成26年度一般会計決算及び六つの特別会計決算が、9月議会において認定されました。決算とは、年度の始まる4月から翌年3月までの1年間に、市の収入がどれくらいあり、どのようにお金を使ったかということ、数字で表したものです。皆さんの家庭で言えば、家計簿を1年間つけた結果に相当します。そこで今回は、皆さんが納めた税金や、国・県からの交付金などがどのように使われたかお知らせします。

### 語句の説明

- **一般会計** 市の運営の基本的な経費を計上する会計
- **特別会計** 特定の事業を行う場合に、一般会計と区別して経理する会計で、市には六つの特別会計があります
- **市税** 市民税や固定資産税、軽自動車税などに納められた税金
- **地方交付税** 地方公共団体が等しく行政サービスを提供することができるよう、用途を限定せずに、国が徴収した税の一部から一定の基準により配分されるお金
- **国庫支出金** 市が実施する特定の事業に対し、国から交付されたお金
- **市債** 市が行う公共事業などの財源として、公的資金などから借りたお金

### 一般会計収支は 歳入、歳出とも増加

一般会計は、歳入が205億1944万1千円、歳出が199億2818万3千円でした。歳入から歳出を差し引いた形式収支は5億9125万8千円の黒字、さらにこの額から翌年度に繰り越す事業の費用4180万4千円を差し引いた実質収支は5億4945万4千円の黒字となりました。

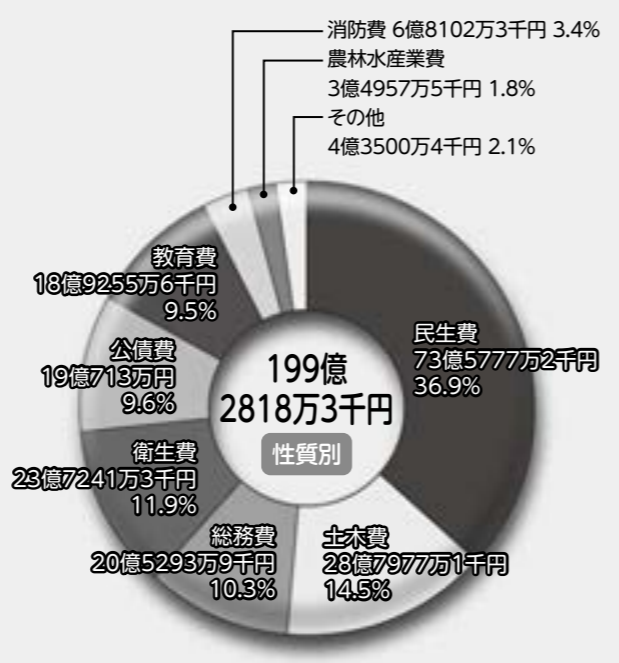
### 人口及び家屋の 増加で市税が増加

歳入は前年度に比べ0.5%増となりました。主な要因として、市税が2.1%、県支出金が18.5%、繰入金18.9%の増となったことが挙げられます。市の収入で最も大きな割合を占めるのが市税です。58億3469万6千円と収入の28.4%を占め、前年度に比べ2.1%増となります。次に割合が大きなのが、地方交付税です。53億888万8千円、25.9%を占めます。

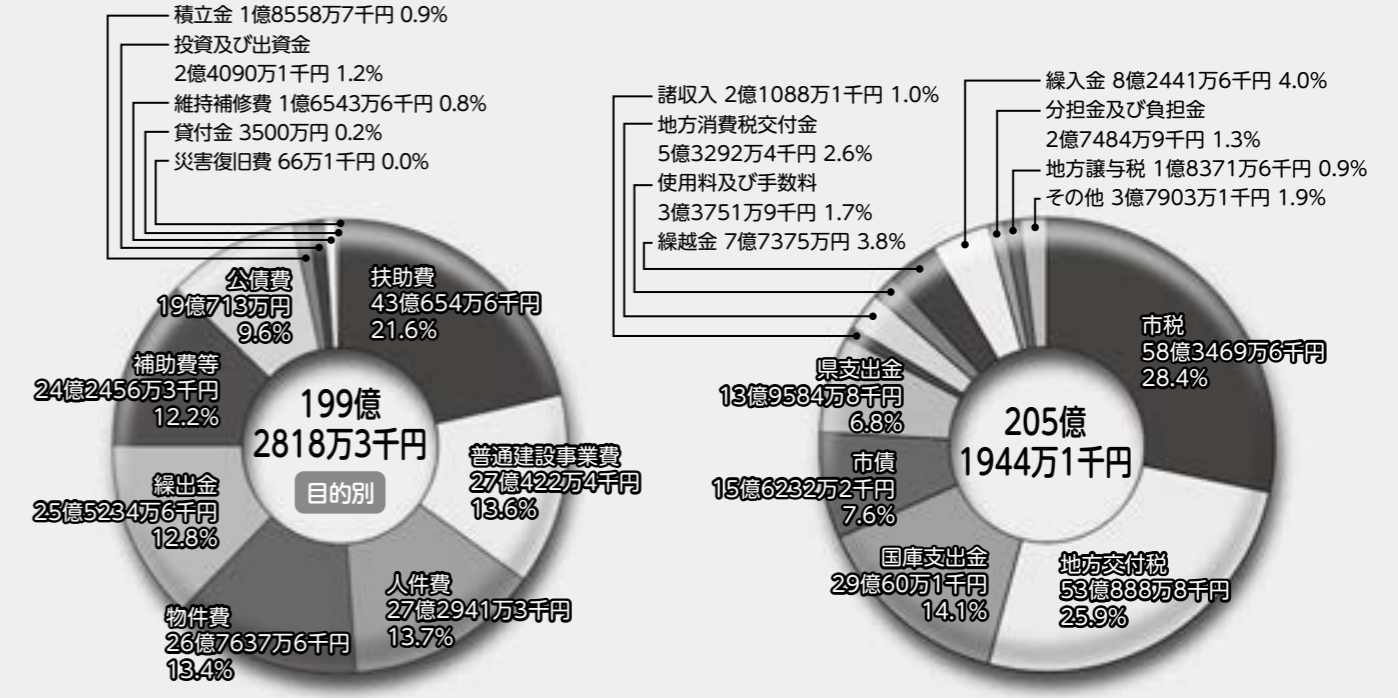
### 特別会計

区分	決算額
国民健康保険事業	歳入 69億8061万8千円
	歳出 68億8525万8千円
	差引 9536万円
後期高齢者医療事業	歳入 8億7831万5千円
	歳出 8億7385万3千円
	差引 446万2千円
介護保険事業	歳入 41億1338万1千円
	歳出 41億783万2千円
	差引 554万9千円
公共下水道事業	歳入 32億1186万8千円
	歳出 30億6497万3千円
	差引 1億4689万5千円
地域し尿処理施設事業	歳入 2523万6千円
	歳出 2523万6千円
	差引 0円
住宅新築資金等貸付事業	歳入 1159万2千円
	歳出 554万7千円
	差引 604万5千円

### 一般会計歳出



### 一般会計歳入





# 指標から見る 財政状況

各種指標		平成26年度	平成25年度
財政力指数		0.533	0.524
経常収支比率		92.4	88.4
健全化判断比率	実質赤字比率	-	-
	連結実質赤字比率	-	-
	実質公債費比率	5.7	6.2
	将来負担比率	16.7	23.4
資金不足比率		-	-

※健全化判断比率、資金不足比率を財政健全化に関する法律の規定で公表します。実質赤字比率、連結実質赤字比率、資金不足比率については、赤字または不足が生じていないため、「-」と表示しています。

## ①財政力指数

財政が豊かであるかどうかを見る指標です。市税などの標準的な収入で、合理的に行政を行った場合にかかる費用をどれだけまかなえるかを表し、過去3年間の平均数値を使います。この数字が「1」に近いほど財政力が強いとされます。

## ②経常収支比率

どれだけ自由に使えるお金があるかを見る指標です。毎年決まって入ってくるお金(経常的収入)が、給与や市債の返済などの毎年決まって支払うお金(経常的支出)にどれだけ使われているかの割合を示します。

## ③実質赤字比率

普通会計の赤字額から財政運営の深刻度を見る比率です。

## ④連結実質赤字比率

すべての会計の赤字額から財政運営の深刻度を見る比率です。

## ⑤実質公債費比率

借金の返済額などの大きさから資金繰りの危険度を見る比率です。18%以上で地方債の発行について国または県の許可が必要となり、25%以上で一部の地方債の発行が制限されます。

## ⑥将来負担比率

負債の残高から、将来財政への圧迫度を見る比率です。350%を超えると健全化計画の策定を行い、財政の健全化を図らなければなりません。

## ⑦資金不足比率

企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率です。

## 語句の説明

- 繰入金** 基金(市の貯金)や特別会計から繰り入れたお金
- 民生費** 高齢者や障がい者、児童の福祉などに使われたお金
- 土木費** 道路や公園などの維持、整備に使われたお金
- 総務費** 総務管理、財産管理、企画、税の賦課徴収などに使われたお金
- 衛生費** ごみ・し尿処理、健康増進などに使われたお金
- 公債費** これまでの公共事業などのために借り入れたお金の返済に使われたお金
- 教育費** 公立学校や幼稚園、図書館などの維持、整備や社会教育に使われたお金
- 扶助費** 生活保護費や児童手当、障がい者支援費などに使われたお金
- 普通建設事業費** 道路や公園、学校などの建設事業に使われたお金
- 人件費** 職員の給与や手当、議員や各種委員の報酬などに使われたお金
- 物件費** 備品購入や消耗品費、業務の委託などに使われたお金
- 繰出金** 特別会計へ繰り出されたお金
- 補助費等** 各種団体への補助金や各種団体への負担金に使われたお金

## 歳出は 教育費が増加

歳出は前年度に比べ1.5%増となりました。目的別の主な要因として、土木費が駅東地区の土地区画整理事業が完了したことによる建設事業費の減などに伴い4.3%の減少、総務費が基金への積立金の減少に伴い19.4%の減となりました。しかし、教育費において、福岡南小学校の給食室の整備や、津屋崎武道場の建替に伴い21.6%の増、民生費が臨時福祉給付金の給付や認可保育所整備などに伴い6.8%の増となり全体で増加しました。

性質別で見ると、最も大きな割合を占めるのが扶助費で、乳幼児・子ども医療費や障害者自立支援給付費などの増加に伴い3億6986万4千円の増となりました。次に大きな割合を占めるのが普通建設事業費で、前述の建設事業費の減少に伴い、2億4232万9千円の減となりました。

## 住みよい豊かな まちづくりのために

今後、人口増加に伴い、児童対策や高齢化対策などさまざまな行政需要の増大が予想されます。これらのニーズに対応するためには、財務体質を強化し、増大傾向にある扶助費などの経常経費を可能な限り抑制することが必要です。歳入面では、市税の滞納対策、遊休資産の売却などの有効活用、広告事業の拡充、ふるさと納税の積極的PRなどの増収策を講じていきます。歳出面では、福津市第2次行財政改革大綱に基づき行財政改革に取り組み、効率的な行政経営を図っていきます。

## 平成26年度に行った主な事業

### ▶ 庁舎統合整備事業 1368万4千円

津屋崎庁舎と福岡庁舎の庁舎統合を実施するため、昨年度実施した基本設計を基に、具体的設計を行いました。

### ▶ 津屋崎庁舎再生整備事業 472万3千円

庁舎統合後の津屋崎庁舎の再生整備に向け、昨年度策定した再生整備計画に基づき、平成27年10月まで基本設計を実施しています。



### ▶ 市制10周年記念事業 910万6千円

今年1月に市制施行10周年を迎え、平成26年春から市制施行記念事業を実施しました。平成27年7月までの一年以上に及ぶ事業で、メイン事業である記念式典を1月に、メインイベントの灯明まつりを3月に開催しました。

### ▶ 認可保育所定数確保事業 2億5207万円

大和保育所の乳児室への渡り廊下の整備や、日蔭野地区に平成27年度に開所する私立保育所の整備に対し、補助を実施しました。また、平成27年度からの新制度に対応するため、子ども・子育て支援事業計画を策定しました。

### ▶ 橋梁長寿命化修繕事業 4406万円

老朽化が著しい光陽台跨線橋及び若木跨道橋の橋面補修工事を行いました。また、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、緊急度に応じて、八つの橋の詳細調査、補修設計を実施しました。

### ▶ 防災事業 1373万9千円

洪水や土砂災害時などの避難所の収容能力などを調査し、地域ごとの緊急避難場所の選定を行いました。地区、家庭ごとの避難経路の策定などに活用してもらい、市民の「自助」「共助」の地域防災力の向上に役立てていきます。



### ▶ JR福岡駅駐輪場整備事業 1億9370万5千円

JR福岡駅さいごう口側に、公共交通機関の利用が円滑にでき、利用者が安心して預けられるよう、収容台数651台の駐輪場を整備するため、用地購入を行いました。

### ▶ 世界遺産登録活動事業 1625万5千円

「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を目指し、県、宗像市と共同した推進会議の事業を実施しました。国内推薦獲得に向け、課題の精査や景観保全に向けた景観基本構想、景観ガイドラインの策定を行いました。また、交流会や九州国立博物館でのシンポジウムを開催し、PR活動を行いました。

### ▶ 観光PR事業 279万4千円

津屋崎祇園山笠が櫛田神社から勧請されて300年、復活して40年という節目の昨年度は、津屋崎山笠保存会を中心に、イオンモール福津で伝統文化記念事業を行いました。また、JR博多シティの中核テナントの博多阪急やつやざき観光馬車付設の広告掲示板でも観光情報を発信し、福津市の認知度向上に努めました。